

日 時：平成27年6月17日（水） 18：30～20：30

会 場：本庁舎19階 1903会議室

1. 事務局長挨拶

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。本日は今年度、第2回目の策定委員会で、そろそろ第4次計画について書き出しをしなければいけない状況になってきています。簡単なレジュメとして構成案をお示しするがまだ十分に練られていませんので積極的にご意見をいただいで対応していきたいと考えています。よろしくをお願いします。

2. 配布資料確認

委員長挨拶

本日はよろしくをお願いします。それでは、まず、区の計画についてお願いします。

3. 練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画について

当日配布資料／（区）「新計画の体系(骨子案)」

（区）「新計画の構成について」

区の計画の取り組み状況について説明する。前回の策定委員会ではスケジュールをお示ししたが、今年の12月を目標に計画を策定する、公表するという進めている。昨年度は区民の方の意見を聞くということで懇談会を実施し、今年度は学識経験者の方を交えた計画策定の委員会を設けている。

本日、お示しする資料は2種類ある。資料「新計画の構成について」について。区を中心とする計画『緑の風吹くまちビジョン』は、区政全般に関する計画になっている。重点的に取り組む項目を18項目に絞っている。その中で、「構想」の②「安心して生活できる福祉・医療の充実」が福祉医療分野の内容であり、戦略計画として[5]～[8]の4つの取り組みが掲げられている。そのうちの[8]の項目が、地域福祉分野の取り組みになっている。[8]は資料の中央に書かれているように、『つながり、見守る地域づくり』で、これから作ろうとしている『(仮称) ずっと住みたいやさしいまちプラン』の重点施策の位置づけにしている。目標と理念についてはお目通しいただきたい。

次に計画のつくりについて。資料「新計画の体系(骨子案)」では、図の右側「目指すまちの姿」は、左側に示した施策と1対1の対応ではないが6項目を立てている。施策1～4が従来の地域福祉計画、施策5と6が従来のハード面も含めた福祉のまちづくり計画である。施策1～3が地域住民の方が主体となる取り組み、施策4は福祉サービスの質を担保するという意味で行政が責任を持って行う取り組みとなっている。施策5と6は福祉のまちづくりに関わるハード面と学びについてである。これはあくまで案として現在お示ししているもので、学識経験者を交えた委員会や議会からの意見を踏まえながら今後、計画として作っていく。現段階では計画の骨格としてご理解いただきたい。

特に施策[8]の「つながり、見守る地域づくり」では、地域のつながりを強化していくということで、社協の全面的な協力のもとで取り組んでいく内容である。そして従来から取り組んでいる地域福祉コーディネーターの取り組み等も含めて、社協の計画とは連携していきたいと考えている。まだ、アウトラインだけだが、この骨格のもとに区の計画は12月策定を目標にすすめていく。

委員長：質問のある方は発言をお願いします。

- 委員 : 資料「新計画の体系(骨子案)」の見方の確認をしたい。「課題と取組方針」で、3つの方針は施策との対応(方針1が施策1と2に対応、方針2が施策3と4に対応)を示しているのか?
- 区職員 : おおまかにはそうだが、正確にきっちりと分けられないし各方針についてその施策だけでカバーできているとは考えていない。住民懇談会で出たキーワード(気づきの輪、その人らしい暮らしを支える、バリアの解消)を分けて「方針」として示している。1対1の関係ではなく、相対としての関係ととらえていただきたい。
- 委員 : 施策の1~4に、社協がやろうとしている取組みが分かれて入っているととらえている。社協で考えなければいけないことかもしれないが、目指すまちの姿も含めて施策1~4の内容をまとめることも考えないといけないかなと思ひ、質問させていただいた。
- 区職員 : まだ細かいところは重複している部分もあるので、これから整理しながらまたお示ししていきたい。
- 委員長 : わたしから1つ質問したい。日本語の問題なのかもしれないが、資料「新計画の構成について」は、「戦略計画」が18あって、その右に矢印が出て「分野別の計画」とつながっている。「戦略計画を各分野別計画で「重点施策」に位置付け」と書いてあるが、どうとらえればいいのか?
- 区職員 : 区の全体的な計画が「ビジョン」になるが、その中で18の全ての施策に言及することはできないので、「ビジョン」の下にある分野別の計画の中で、重点施策としていくということである。
- 委員長 : 「ずっと住みたいやさしいまちプラン」の重点施策は?
- 区職員 : 戦略計画の[8]、「つながり、見守る地域づくり」になる。
- 委員長 : 「ビジョン」は「ずっと住みたいやさしいまちプラン」の上位計画か?
この資料の内容だと「戦略計画」の[8]に、「ずっと住みたいやさしいまちプラン」を位置付けているととれるが。逆になっているような気がする。
- 区職員 : 戦略計画の[8]という取組みが、「ずっと住みたいやさしいまちプラン」の施策1に入るという意味合いである。わかりづらいようであれば、ここの説明の文章は訂正したいと思う。
- 委員長 : 本当に日本語の問題。戦略計画の[8]を「ずっと住みたいやさしいまちプラン」の重点施策に位置付けるということか。
- 区職員 : そうである。
今現在で40項目くらいの事業が計画に盛り込まれる見込みである。そのひとつに「平常時にゆるやかに見守りあえる地域づくり」や「災害時要援護者支援の充実」が入ってくる。そのことを示そうとした図だが、わかりにくいというご指摘があったので文言を補っていききたい。
区の計画の40ある事業(取組み)の中の重点施策としては、この「つながり、見守る地域づくり」ということでご理解いただきたい。「ビジョン」に盛り込まれている事業を載せるということになる。
- 委員長 : 社協の計画に盛り込まれる内容が、分断されて区の計画に載らないようにうまい方法があれば考えていただきたい。なかなかきれいに図は作れないと思うが、先ほど委員から出された意見はおわかりだと思ひるので、よろしくお願ひしたい。

4. 第4次地域福祉活動計画素案について

資料1・資料2・当日配布資料「第4時地域福祉活動計画の体系図」

3つの資料をご参照いただきながら説明する。

資料1について。3次の計画書は110ページだったが、4次の計画書は50ページを目安にわかりやすく簡潔に思っている。太字で示している1章から5章までの内容を中心に説明し、計画全体の概要を把握していただきたい。

1章は計画策定の背景と主旨、2章は計画の基本理念と視点についての説明、3章は4次計画の柱となる内

容で、地域福祉協働推進員（ネリーズ）とともにどのように計画を進めていくかを説明し、さらに評価についても示す。4章は策定委員のみなさまからのメッセージをいただき、5章が資料編となる。Coffee ブレイクの3つの内容は、第2章に「練馬区のあらまし」「福祉計画と活動計画」「サイレントプアとCSW」という内容で入れていく。Tea ブレイクは9つの内容を各章に入れていければいいと考えている。各章にちりばめることによって、活動計画が読みやすいものになればいいと思っている。

<1章から5章までの内容の詳細は、資料1をもとに説明>

本日、机上配布した資料「体系図」は、2章の1項として載せる内容となる。理念、基本方針、視点については、以前の策定委員会でお示したものと変更はない。2つの視点について、連動していることを矢印で示しているが、その図の中央に“地域福祉協働推進員（ネリーズ）とともに進める”という表現を追加している。ネリーズは4次計画の柱であり、体系図の中にも追加している。

続いて、資料2をご覧いただきたい。先ほど見ていただいた体系図の下の「練馬区社協の取り組み※詳細は〇〇ページへ」のところと資料2の内容が繋がっている。「日常的なつながりを深める（地域の気づきの視点）」では3つの推進項目に分けて取り組みを示す。同じように資料2の裏面「今日的な地域課題に対応する（個別の育ちあいの視点）」についても、4つの推進項目ごとに取り組みを示す。また、委員会の取り組みについてもこの表の中に含めて載せていく。以上、資料2でお示した4次計画の取り組み項目は2章の2項の内容となる。

5. 第4次地域福祉活動計画策定までのスケジュールについて

資料3

昨年度9月の策定委員会でお示したものと大きな変更はないが、策定委員会の開催を8月上旬から下旬に変更させていただいている。4月の策定委員会でも区の計画の進捗についてお示したが、スケジュール（案）の中にも右側の欄に「区の計画」として追加している。推進部会については開催済みのものはその会で検討した内容を記述している。

委員長：説明いただいた構成案とスケジュールに関して質問をいただきたい。

4次計画全体の柱や個々のところはこれまでも話をしてきたので、細かい内容で本日、見えたこともあると思うが、いかがか？

委員：3次計画との違いがどこにあるのか、については、どこを見ればいいのか？

従来の第3次計画のままではなぜいけないのか？ どこかにその記述があればいいと思う。

職員：第1章の2項に3次計画の成果と課題を書いて、3次計画と4次計画の方向性はほとんど同じだということを示す。3次計画との違いというよりは、それを踏襲していくという内容がここに入る。

委員長：もともと計画は年度で切って作っているのだから、3次計画の次が4次計画となる。1章の2項で前の計画を振り返ることになる。両者の違いは2章1.(1)の「3次計画を振り返って」で記載する。例えば、小地域福祉活動と人材育成は3次計画ではそれぞれ柱としていたが、推進しているうちに人材育成と小地域福祉活動はつながっているということが明らかになってきた。その中から地域福祉協働推進員の話も出てきた。そういう意味では2章の1項(2)でその必然性が示せるといい。それをどこかで記載したほうがいいのかというご意見だろうか？

委員：そのほうがわかりやすいと考えた。

委員長：「はじめに」の所でそれを示すのはどうか。3次計画でこうやってきたけど、やっているうちにこういうことがわかってきたから4次計画ではこのようにするというように。

委員：関連する話として、策定までのスケジュールの説明を聞いて、要するに次の策定委員会までに文章を書かないといけないということがわかった。私自身は成果と課題（1章2項）のところを書くことになっている。人材育成と小地域福祉活動が相互に影響しあい両輪になっていると

ころを伝えないといけない。「両輪になっている」ということを表す言葉で、資料1の左下に“人材育成を踏まえた小地域福祉活動の推進”とあるが、両輪というイメージとこの文言が、自分の中でしっかりこない。どのように考えているのかをあとでもいいので教えていただきたい。もう1つは、区の資料（当日配布資料）の「新計画の体系（骨子案）」について。社協の計画では、人材育成と小地域福祉活動を両輪とすること、「気づき」と「育ち合い」の視点で進めていくという目標があるので、区の計画の方針1、方針2と社協が今回掲げるもの連携をどう示していくか、本当は似たような言葉を用いるほうがわかりやすいと思う。また施策6にあるまちづくりの部分にも社協としてどう関わっていくのかということも考えないといけないと思う。そのこともあり、両輪ということと区の施策1から6までの内容との関連性を、社協として計画の中にどうあらわしていくのかということを書くとしまでに整理してほしい。

委員長：3次計画の人材育成は専門職の育成の話（障害福祉サービスの事業所に対する研修センターの話）と、光が丘や豊玉のモデル地区で小地域福祉活動を推進してきた中で、区民に対する人材育成を踏まえないとできないという話が計画の後半のほうから出てきた。3次計画は区民への人材育成に触れていないわけではないが、2つの重点事業（小地域福祉活動と人材育成）が“相互に影響しあう”ではなく、小地域福祉活動をやっていく中で区民（地域の人材）の育成は大切ということがわかってきたということではないか。

副委員長：地域福祉協働推進員の話の中で、白百合やかたくりの利用者なども入れていったらどうかという話になってきた。

委員：今すぐに無理に答えをいただくというより、一緒に考えたい。だからネリーズが必要なのですとつながっていくはず。両輪というのは簡単だが、具体的にどうすると両輪になるのか一緒に考えたい。

委員長：もう1回、推進部会はあるのか？推進部会は4次計画の素案（文章化）を持ち寄ってやるのか？

職員：その予定である。実はとてもタイトなスケジュールである。

委員長：委員がおっしゃったような両輪をどうするのかという議論は、これまでの推進部会でしてないのか？

職員：具体的にはしていない。

委員長：次の推進部会は、素案（文章化）を持ち寄ってやるということのようなので、計画の中に入れて込んだほうがいい内容があれば是非、委員の皆さまも後でもいいので事務局に言っていただきたい。

6. 地域福祉協働推進員を募集するチラシについて

資料4

前回の策定委員会では4つのパターンでチラシをお示しした。地域福祉協働推進員の愛称は「ネリーズ」で進めていきたい。今回お示ししたチラシはA3版で、間にA4版の登録書をはさんだ。カルタでは、大人向けの内容だけでなく、子供向けの内容も入れた。ネリーズバッチについては現在、デザインを検討中。地域の情報等を発信すること、地域のよいところや、やってみたいことなどを定期的な懇談会を通じて情報共有し、地域福祉の活性化が図れればいい。チラシを用いて説明して登録していただくという流れを想定している。登録書に記入いただく「地域の良いところ、ネリーズになったらやってみたいことなど」は、懇談会の話題のきっかけに活用していきたい。

前回の策定委員会では、4月の理事会・評議員会でネリーズについて周知したことをご報告したが、今月開催された民協では、豊玉地区と土支田地区でお話させていただいている。ネリーズとして活動していただく場がすでにあるということで、この2つの地区で説明した。土支田はどんぐりの家の活動、豊玉は懇談会をすでに定期的にやっている。2つの地区で10名近くの方にすでに登録もいただいている。今後は、登録者も次第に増えていくと思う。次回（7月）の民協では、すべての地区で説明する予定。

全ての地区で同時に懇談会を開催するのは難しいので、登録していただいた方々には、それぞれの地区での懇談会ということではなく、すでにおこなっている集まりや地域の拠点を利用するなど、そのあり方は今後検討していきたい。前回の策定委員会でいただいたご意見も踏まえ、この方向で進めていきたい。

委員長：質問やご意見は？

委員長：前回の策定委員会を欠席したので、すでに議論されているかもしれないが、カルタは全部作るのか？また、登録書の中に「年齢」も必要なのではないか？大人向けの懇談会を子どもに案内するのではなく、子ども部会などもあったほうがいい。「性別」については、必要かどうかわからないがどうか？懇談会は計画そのものの中にもう少し詳しく書いたほうがいいのではないか。どういう形で全体が組織化されるのか。他の地域の地域福祉協働推進員と情報を交換する機会を設けるなど、年1回くらい集まる会を設けることができるのか。

また、シビアな問題に直面したときにつなぐ専門家のルートや、つなぐためにどうしたらいいのかなどの研修が入っていたほうがいい。それがないと疲弊してしまう。また、(ネリーズの)組織図をどうするのか。出張所圏域または全圏域でできるのか？

個人情報の取り扱いなどについても勉強する場が必要になってくるのではないか、個人情報のことを喫茶店などで言うのはまずいなどの研修をどうするのか。実際に動きだすのにビジョンができていないとつらい。前回の策定委員会でそういう話が出たのかもしれないが気になった。

委員：チラシの中に懇談会をやりますとはっきり書いたほうがいい。具体的に何をやるのか書いたほうがいい。全ての地域でできないかもしれないけど、骨を入れておかないといけないと思う。

職員：このチラシは、見てもらうために置くだけという使い方はしない。ご指摘いただいたことは、説明の時に添えて伝えるようにしたい。明記しないといけないという思いもあるが、まずは口頭できちんと説明していく。

委員：懇談会など、すでにやっている所はいいが、何も無い地域はイメージできない。

委員長：4次計画の別刷りとして作成したらどうか。チラシはチラシとしてこれでいい。ネリーズについて、どのようなことを何のためにするのか、きちんと知りたい人向けに用意しておくことが必要である。

委員：今後、懇談会はどんな形で進めていくのか？

職員：最初は少人数でもやっていきたい。すでに場の用意ができているという意味でこの2地区だったが、地域によって集まる回数も違う。全ての地域が同じように進められるわけではないので、地域にあった進め方でいいと思う。

委員：民協で周知した後、社協がリーダーシップをとってやっていくのだと思うが、どのようなイメージか？

職員：リーダーシップを社協がとるというよりは、懇談会で集まった人と一緒にというイメージ。社協ができること、住民ができることがある。社協は一員としてやっていきたい。

委員長：社協は、一緒に取り組むというのではないのではないか。アドバイザーという位置取りをしないと。ネリーズだけでどんどん決めて何かやってくれるものではない。東社協に聞けば、全国の事例がわかるので研究して欲しい。

生活圏域ごとに懇談会があって、代表者会議も必要。地域ごとに課題はあるだろうが。

副委員長：今日の午後、社会福祉法人の集まりがあった。それにネリーズをうまく重ねていけるといい。ネリーズだけで解決できないことを社会福祉法人がハンドリングする。とすれば、今日の午後の打ち合わせで話したことも生きてくる。

事務局長：今日、社会福祉法人の社会貢献事業の打ち合わせがあった。練馬区内の法人がうまくつながって、お互いに何をやってるか知り、一緒に解決に向けて協働していこうと提案し、ネットワークづくりをやらないかと呼びかけた。今年度は3回集まろうという話になった。明星副委員長

の意見のような方法もあると感じた。

委員：社会福祉法人の集まりにおける全体のスキーム検討の中で、ネリーズが困ったことを法人が解決したり、専門家だけでの解決ではなく逆のスキームもある。地域の人でないと解決できないこともある。懇談会に来なければいけないことに敷居の高さもある。懇談会とは別にお互いに思っていることを共有できる「場」（物理的なもの）がいいのかというのはあるが、次回までに事例を調べてくる。

委員：社会福祉法人の中にネリーズをつなげていけばいい。ネリーズが石を投げる役割にもなる。新しい試みだから試行錯誤でやってみればいい。新しい試みとはそういうものだ。

委員：社会福祉法人とネリーズ。例えば「貧困」のテーマで講師がいないとなった時に連携できる。社協ですべてができるわけではない。

委員：新しい試みゆえに、幅を広げた試みも必要。人材育成について考えた場合、住民ができること、専門職ができることは役割も機能も違う。住民の中にも専門性をもっている人もいる。計画の中で、“つなぐ”が抽象的でわかりにくいので、事例を書くとか流れが書けるといいのではないのか。

委員：練馬方式をつくれればいい。萎縮しないで欲しい。

委員長：大胆かつ繊細に責任を持って。1回や2回のミスで色々言わないように。地域包括の下のランチ（支所）は社会福祉法人が担っていることが多い。そういうところと行っていくといい。ネリーズが直接、社会福祉法人と行っていくのはつらい。

職員：地域福祉コーディネーターがずっとやってきたことだと思う。民生児童委員や自治会の人に声をかけて、専門家も入れて、住民ができること専門家ができることを意識してコーディネーターが仕掛けている。今度はネリーズを見えるようにして4次計画はやっていきたい。地域の集まりにお邪魔して話していきたいと思う。社協の拠点に集まるでもいい。懇談会は全ての地域ですぐに立ち上がらなくても拠点に行けば話ができる。

委員長：案ずるより産むが易し。何か起きたら考える。ただ、仕掛けたのは社協だから、起きたことには責任を持つ必要がある。

委員：ネリーズは具体的にどういう人たちがやるのか？民生児童委員と同じ空気をもっている人か？そういう人はすでに地域で活動している。例えば、区内で活動しているボランティア団体に対して働きかけてもいい。その時、その団体にとって何が良いのかを明確に説明できるといい。団体のメンバーの1人がネリーズになれば、もっと地域とつながるとか、縦糸と横糸がつながるといえることがあれば「それもいいかな」と思ってくれるはず。例えば、自分の団体がつくりつつつながれるとありがたいと思う。また、地域福祉のコーディネートをしてきている人が自分の団体にもいるが評価されない。ボランティア活動の評価は誰がどうしてくれるのかと思う。そういう意味では、懇談会をした場合、社協のアドバイザー的な要素が入って、役割を評価してくれると承認されたような気持ちになる。ネリーズになる意味、なったことによって認められたという感覚がないと遠いものになってしまうと思う。

委員長：この活動（ネリーズ）に対して何なの？ということにならないように。例えば「ネット関」はもう動いている。すでに活動している方々や団体にもきちんと事前に説明が必要となる。邪魔するわけではなく、そのことでそれぞれの団体の縦と横が深くなるなどの説明が必要。いとしのネリーになればいい。

副委員長：「ネリーズ」という名称はピンとくるようになりませんか？

委員：発足にあたっての理念が必要。地域は兼務でやる人が多い。ひとつの理想を持っていかないとダメ。すでに地域で複数の活動をされている方々には、いままでの説明だとわかりにくいと思うが、取り組み自体は大変いいことだと思う。練馬区全体も高齢化している。共に手を携えてやっていくべきと思う。組織を立ち上げるのは苦勞も多い。

委員：産業界としての意見を言うと、“大きいことはいいこと”という価値観が崩れている。青い鳥は何か？ボランティアというもの、ネリーズはいいこと、ああそうかとみんなが思えばいいと思う。新しい青い鳥となる。

委員長：今の産業界は、そういうことを知りながら、まだ大きいものを求めようとしている。小さい単位で動く、行動の交換で動くようにならないともたない。とすれば、小さいところでどう暮らしていくかを考えるようになるはずである。

7. まとめ

委員長：人口減少社会でどういう暮らし方をしていくのか？生産が落ちていく中でどういう暮らしをしていくのか？この間、日本創生会議における高齢者の地方移住の話があった。チェスの駒じゃないのに動かされてもという感がある。人口が減ればひとりの持ち分の土地は広くなるが、民家改修型のGHは東京都内ではできない。都の整備局にはまちづくり整備指針があって難しい。民家は全部壊して建て直さないとその指針にあてはまらない。東京は地価も高いし単価も高い。ほどほどで暮らすという思想を持って、地域福祉で考えていかなければならない。自分たちのことは自分たちで考える、で、どこまでできるか。言ったからには最後は責任を取るという覚悟でやらなければいけない。

副委員長：3次計画で社協の職員が地域に向けて動き出した。4次計画で地域福祉協働推進員(ネリーズ)の登場もあり、いよいよ住民主体が実現するのかと期待している。
今日の午後、社会福祉法人集団指導が区役所であった。つつい社会福祉法人は様々な自分たちの事業対象だけを支援していればよいと思っているが、制度の狭間で困っている人はたくさんいるので、社会福祉法人の人と一緒にやれるといい。新しい組織を作るといよりそれぞれの人がネットワークを作ってやっているといいと思う。

8. 次回の日程について

8月24日(月曜日) 18:30～ 場所は後日お知らせする

以上